

研究代表者氏名	渡辺 晃宏		研究組織	13人		
所属機関・部局・職	独立行政法人文化財研究所 奈良文化財研究所 平城宮跡発掘調査部 史料調査室長		所属機関所在地	奈良市		
研究課題名	推論機能を有する木簡など出土文字資料の文字自動認識システムの開発					
研究の概要等	<p>平城宮跡で初めて木簡が出土して42年が経過し、今や木簡は、歴史研究に欠かせない資料となった。木簡研究の基礎となる最も重要な作業は、文字の釈読である。本研究では、当研究所の長年にわたる木簡研究の蓄積を生かしながら、近年めざましい進展を遂げている古文書における手書き文字OCR技術による文字自動認識システムを応用して、木簡などの出土文字資料の文字の釈読を自動的に行う方法の開発を目指す。これによって、木簡の釈読技術の汎用化と効率化を図り、さらに当研究所のもつ歴大な文字資料を画像とともに検索に耐え得るデータとして蓄積し、広く公開していきたい。</p> <p>開発を目指すシステムは、以下の通りである。</p> <p>木簡の文字情報を簡易にデジタル化するシステム。</p> <p>木簡の「文字」の事典。</p> <p>木簡の釈読作業を支援するデータベース群。</p> <p>木簡釈読用のOCR</p>					
当該研究課題と関連の深い論文・著書（研究代表者のみ）	渡辺晃宏、平城京と木簡の世紀（日本の歴史04巻）、講談社、2001年 奈良国立文化財研究所、平城京木簡2 長屋王家木簡2、奈文研史料第53冊、2001年					
研究期間	平成15年度～19年度（5年間）					
研究経費（16年度以降は内約額）	平成15年度 千円 11,900	平成16年度 千円 17,300	平成17年度 千円 15,900	平成18年度 千円 13,300	平成19年度 千円 16,200	合計 千円 74,600
ホームページアドレス	なし					